

科目名	GCB I										
科目名(英)											
単位数	1単位		時間数		16時間		担当者		志水徹・今村美穂・江利かおり・小井手武治・毛利俊司・奥野広成・川原弓佳		
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験				
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年										
授業概要	「感謝と思いやり」「自分のあり方」について講義、DVD、書籍を活用しながら、自ら考え、気づいたり、クラス内で話し合いや発表を行う。感謝と責任感、他者への思いやりを日常生活でカタチとして表現・実践できるようにする。										
	iCDタスクコード		該当なし								
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					キャリア実現の鍵は専門能力および発揮できる力(人間)であることを説明できる					
	○	○				感謝心が人間力の根底であることを説明できる					
	○	○				人間力を高めるためのマナーの重要性を説明できる					
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシック I (麻生塾)										
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示		
	1	グローバルシティズンを目指そう									
	2	「協働」の態度を持った学生生活									
	3	よりよい人間関係の構築に向けて～モラル・ルール・マナーの重要性～							グループワークのテーマについて自分の考えをまとめてくること(30分)		
	4	マナーの本質 I									
	5	マナーの本質 II									
	6	グローバルシティズンとしての日常									
	7	グローバルシティズンとしての目標							自分の目標をまとめてくること(30分)		
	8	グローバルシティズンとしての「志」に向けて									
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
	15										
評価方法	(1)課題・レポートを数回実施する (2)受講状況を評価する 以下を上記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	課題・レポート		○		○				◎		80%
	受講状況								◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。										

科目名	機械学習A									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		山下 文夫	
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年									
授業概要	機械学習の種類や学習モデルから計算結果を得るため基本手法について学ぶ。本科目の学習後にサーティファイ主催AI検定を受験する。									
	iCDタスクコード		AI03.3.1、AI03.3.2、AI03.3.3							
授業形態	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				機械学習の手法の種類を説明できる				
	○	○				AIに関する基礎的な用語問題を答えることができる				
テキスト・教材 参考図書	『AI・機械学習入門』 インフォテック・サーブ、2021									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	人工知能の基礎知識								
	2	機械学習の基礎知識								
	3	開発環境の構築								
	4	Numpy(数値計算ライブラリ)								
	5	Matplotlib(グラフ描画ライブラリ)								
	6	Pandas(データ解析支援ライブラリ)								
	7	基本統計量					3つのライブラリの違いを復習すること			
	8	scikit-learnを用いた機械学習プログラミング								
	9	分類 Kmeansの適用(アヤメの分類)								
	10	回帰分析(ボストン住宅価格)								
	11	線形回帰分析								
	12	重回帰分析								
	13	交差検証法								
	14	AI基礎知識					実行した分析手法の違いを復習すること			
	15	AI基礎知識(続き)								
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験		○	◎				60%		
	小テスト		○	◎				20%		
	受講状況					○		20%		
履修上の注意										

科目名	AIプログラミング演習										
科目名(英)											
単位数	4単位			時間数		60時間		担当者		野馬 克則	
実施年度	2023年度			実施時期		前期		担当者実務経験		ITエンジニアとして開発業務に従事	
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年										
授業概要	AI(機械学習)の実装で最もよく利用されるPythonについて学習し、Python3エンジニア認定基礎試験に合格できる知識を習得する。また、プログラム作成の演習を通してPythonの実装スキルも身につける。										
	iCDタスクコード			AI03.3.2							
授業形態	講義：△			演習：○		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
		○				Pythonの特徴について説明することができる。					
		○				Pythonを利用して構造化プログラミングを実践することができる。					
		○				与えられた関数仕様を満たすPythonのプログラムを実装することができる。					
		○				Pythonのモジュールを利用することができる。					
テキスト・教材 参考図書	三谷 純『Python ゼロからはじめるプログラミング』翔泳社、2021										
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示		
	1	Pythonに触れる									
	2-3	Pythonの基本									
	4-5	条件分岐と繰り返し(条件分岐と論理演算)									
	6-7	条件分岐と繰り返し(処理の繰り返し)									
	8-9	組み込み型とオブジェクト(文字列操作、リストとタプル)									
	10-11	組み込み型とオブジェクト(辞書と集合、基本型の性質)									
	12-13	ユーザー定義関数(関数の基本)									
	14-15	ユーザー定義関数(関数の応用)							これまでの授業内容の復習を行うこと(2時間)		
	16-17	プログラム作成演習									
	18-20	クラスの基本(クラスとメソッド)									
	21-23	クラスの基本(継承)									
	24	発展と応用(例外処理、ファイルの読み書き)							これまでの授業内容の復習を行うこと(2時間)		
	25-26	検定試験対策									
	27-29	模擬試験									
	30	総復習									
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)プログラム作成演習を実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験			◎				60%			
	プログラム作成演習			◎				20%			
	受講状況					◎		20%			
履修上の注意	PCを持参すること(学校PCでも可)。										

科目名	統計学									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		山下 文夫	
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年									
授業概要	統計学分野の用語や考え方について体系的に学習し、データ分析を行うための基礎知識を学ぶ。									
	iCDタスクコード		AI03.4.2							
授業形態	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○					統計学の分野の各用語を説明できる				
	○	○				統計学の分野の各問題を解くことができる				
テキスト・教材 参考図書	阿部 真人 『データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門』 ソシム、2021									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	統計学とは								
	2	母集団と標本								
	3	統計分析の基礎 データの種類、統計量								
	4	統計分析の基礎 確率								
	5	推測統計								
	6	信頼区間								
	7	仮説検定								
	8	仮説検定の計算					計算問題を復習すること			
	9	様々な仮説検定								
	10	回帰と相関								
	11	統計モデリング								
	12	仮説検定における注意点								
	13	因果と相関								
	14	ベイズ統計								
	15	統計モデル・機械学習モデル・数理モデル								
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験		◎	◎				50%		
	確認テスト		◎	◎				30%		
	受講状況					○		20%		
履修上の注意										

科目名	AIサービス演習						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数		60時間	担当者	元田 真史
実施年度	2023年度		実施時期		前期	担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	AWSの機械学習サービスについて学習する。AWS Academy Machine Learning Foundationの講座を学習し、機械学習の概念と用語を理解する。また、同講座のハンズオン演習により、各種サービスの利用方法を習得する。						
	iCDタスクコード		AI03.3.1、AI03.3.2、AI03.3.3				
授業形態	講義：△		演習：○		実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				機械学習について説明できる。	
		○				AmazonSageMakerを使用して機械学習パイプラインを実装することができる。	
		○				AWSの機械学習サービスを予測・コンピュータービジョン・自然言語処理に使用できる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	AMLFの概要					
	2-3	機械学習の紹介					
	4-9	Amazon SageMaker(データの収集～トレーニング)					
	10-11	Amazon SageMaker(評価とチューニング)					これまでの授業内容を復習すること(2時間)
	12-15	Amazon SageMaker演習(アルゴリズムの選択とトレーニング)					
	16-17	Amazon Forecast(予測の導入)					
	18-19	Amazon Rekognition(コンピュータービジョンの導入)					
	20-21	Amazon Rekognition演習(画像分類)					
	22-23	Amazon Polly/Comprehend/Translate(自然言語処理の導入)					これまでの授業内容を復習すること(2時間)
	24	AIサービスの実装例					
	25-29	オリジナルのAIサービスの開発					
	30	成果発表					
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)知識確認テストを実施する。(3)AIサービスのプログラム開発課題を課す。(4)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験			◎				30%
確認テスト			◎				20%
プログラム課題			◎				30%
受講状況					◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。 PCを持参すること(学校PCでも可)。						

科目名	データベース演習							
科目名(英)								
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	柴内 加代	
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験		
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年							
授業概要	表検索、表結合、表作成などの基本的なSQL操作をステップアップ形式で学習する。実行環境を作成し、毎回、SQL操作結果を確認しながら、目的に応じた表操作ができることを目指す。							
	更にデータベース設計の知識やプログラミングとの関連性も学びながら、後期の企業連携授業へと繋げる。							
	iCDタスクコード		DV05.2.3, DV05.2.4, DV08.2.2, DV08.2.3					
授業形態	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				記述されたSQL文を理解できる		
	○	◎				要求されるデータ操作や表定義のSQL文を記述できる		
	○	◎				データモデルや正規化の知識を元にデータベース設計ができる		
テキスト・教材 参考図書	ミック『SQL 第2版 ゼロからはじめるデータベース操作』翔泳社、2016							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1-2	データベースの構成と特徴、実行環境の作成						
	3-4	データの追加・変更・削除						
	5-6	データの削除、確認テスト				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	7-8	テーブル作成 基本						
	9-10	テーブル作成 応用(参照制約、インデックス)						
	11-12	確認テスト、SELECT文_検索1				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	13-14	SELECT文_検索2、グループ化						
	15-16	SELECT文_整列、副問合せ						
	17-18	SELECT文_結合						
	19-20	SELECT文_CASE式、ビュー						
	21-22	確認テスト、データベース設計(正規化)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	23-24	データベース設計(E-R図、フィールド、制約)						
	25-26	データベース設計(テーブル定義書)						
	27-28	総合演習 SQL						
	29-30	総合演習 設計、総復習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テスト3回実施する。 (3)授業内に課題演習を指示し、課題の完成度や提出状況を確認する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	◎				30%	
	確認テスト	○	◎				20%	
	課題演習			◎	◎		40%	
	受講状況				◎		10%	
履修上の注意								

科目名	Webプログラミング演習ⅡA						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間	担当者	柴内 加代	
実施年度	2023年度		実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	テキストとオリジナル教材で講義と演習を行い、PHPを活用したWebアプリケーション開発の基礎修得を目指す。達成スキル表を提示し、技術習得の見える化を行っていく。外部Webサーバで動作確認を行いながらWebアプリケーションの理解を深める。また、演習問題を実施して、知識の定着を図る。 iCDタスクコード DV08.2.1, DV08.5.1, DV08.5.2, DV08.5.3, DV08.5.4						
授業形態	講義：	△	演習：	○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○				Webアプリケーションの仕組みを説明することができる	
	○	◎				PHPの基本的な知識(基本構文、制御構文等)を利用したプログラムを作成できる	
		◎				PHPフォームを利用した入出力操作のプログラムを作成できる	
		◎				外部Webサーバ上のデータベースを操作することができる	
テキスト・教材 参考図書	松浦健一郎、司ゆき 『確かな力が身につくPHP「超」入門 第2版』 SBクリエイティブ、2022						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	外部サーバのアカウント作成、Webサーバの仕組みについて					
	3-4	リクエスト・レスポンス、HTMLの復習					
	5-6	PHPフォーム作成、文字コード					
	7-8	乱数、基本ステートメント					
	9-10	フォーム操作1					
	11-12	フォーム操作2					
	13-14	フォーム操作3					
	15-16	フォーム操作4、課題作成				演習課題を提出すること	
	17-18	日付処理、正規表現					
	19-20	課題作成				演習課題を提出すること	
	21-22	効率的なプログラミング					
	23-24	外部データベースの操作1					
	25-26	外部データベースの操作2					
	27-28	外部データベースとの連携1					
29-30	外部データベースとの連携2						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する(2)プログラミング課題を数回実施する(3)受講状況を評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				30%
	課題演習	○	◎		◎		60%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	GCB II									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		16時間		担当者		山下 文夫	
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年									
授業概要	「志の教育」を通して、以下の3つの力を持つグローバルシティズンを目指す ①歴史の理解とグローバル化を見据えた広い視野・知識と深い洞察力 ②未来からの反射を踏まえた自分像に向けて自己を革新する成長力 ③与えられた環境で可能性を見出し、貢献する行動力									
	iCDタスクコード		該当なし							
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
		○				考えることの大切さを理解することができる。				
		○				自分の言葉で伝える大切さを理解することができる。				
		○				目標の大切さ、志の大切さを理解することができる。				
		○				行動する大切さを理解することができる。				
テキスト・教材 参考図書	『グローバルシティズンベーシックⅡ』 麻生塾									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	グローバルシティズンと志					振り返りレポート			
	2	なぜ志を立てることが大切なのか					振り返りレポート			
	3	自己を知る					振り返りレポート			
	4	伝える力を学ぶ(1)					振り返りレポート			
	5	伝える力を学ぶ(2)					振り返りレポート			
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる					振り返りレポート			
	7	自己の大切さと責任を自覚する					振り返りレポート			
	8	GCB IIを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと					振り返りレポート			
評価方法	(1)毎回の授業でレポートを指示する。(2)授業で取り組むグループワークや発表内容を評価する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	レポート			◎		○		80%		
	受講状況					◎		20%		
履修上の注意	再試験は実施しない。									

科目名	ゼミナールⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	山下 文夫
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・ 情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	学校生活を送る上での基盤となる力や社会で働く力を育む。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義:	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		人間関係を自主的、実践的により良いものへと形成できる	
	○			○		社会的・職業的自立の意義を理解し説明できる	
	○			○		社会生活を営む上で必要なマナーやルールを理解し説明できる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	クラス内オリエンテーション 年間ターム確認				前期の目標を検討すること(1時間)	
	2	クラス内オリエンテーション 年間目標作成					
	3	就職準備 職種研究					
	4	就職準備 企業研究				調査レポートを作成すること(1時間)	
	5	クラス内コミュニケーション①					
	6	クラス内コミュニケーション②					
	7	業界理解 ICT技術研究①					
	8	業界理解 ICT技術研究②				調査レポートを作成すること(1時間)	
	9	クラス内グループワーク①					
	10	クラス内グループワーク②					
	11	キャリアプランニング					
	12	クラス内勉強会 検定試験対策①					
	13	クラス内勉強会 検定試験対策②					
	14	クラス内勉強会 検定試験対策③					
	15	クラス内勉強会 期末試験対策					
評価方法	(1)授業内でレポートを指示する。(2)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		○				80%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅠ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	川原 ユウジ
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	自己のふるまいを見直し、社会人として、より良いコミュニケーション力を育む。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		きちんと声を出して挨拶ができる	
	○			○		効果的な自己PRができる	
	○			○		相手に伝わる表現や話し方ができる	
テキスト・教材 参考図書	ウイネット『コミュニケーション技法』ウイネット、2009						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	序章「コミュニケーションしてみよう」【印象交換】				コミュニケーションについて、自分なりインターネットや本で調べる	
	2	「コミュニケーションの基本」【ア行で話そう】					
	3	「コミュニケーションの基本」【絵で話そう】					
	4	「コミュニケーションの基本」【あいさつとマナー】					
	5	「コミュニケーションの基本」【あいさつの達人】				コミュニケーションの基本について復習を行なう	
	6	「きれいな発声・発音を身につけよう」【話し方チェック】					
	7	「正しい日本語を身につけよう」【日本語を考える】					
	8	「正しい日本語を身につけよう」【正しい言葉遣い】					
	9	「正しい日本語を身につけよう」【敬語をマスター】				プレゼンテーション内容を事前に考える	
	10	「話すときの心構えを理解」【プレゼンテーション①】					
	11	「話すときの心構えを理解」【プレゼンテーション②】					
	12	「効果的な話し方を身につけよう」【5W2Hで話す】					
	13	「効果的な話し方を身につけよう」【AIDMAの法則】					
	14	「効果的な表現力を身につけよう」【態度と目線】					
	15	「効果的な表現力を身につけよう」【ゼスチャー】					
評価方法	(1)課題・レポートを実施する。(2)小テストを実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート	○			○		55%
	小テスト	○					25%
	受講状況				○		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	一般教養ⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	畠添 正和	
実施年度	2023年度		実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報工学科 2年・情報システム専攻科 2年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース1年、情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	就職筆記試験における「SPIテスト」の対策を行う。 (1)非言語(数学)分野:演習プリントを使い、各問題を「基本通りに対応し」答えを求める手順を確認する。 (2)言語(国語)分野:出題パターンの確認及び練習問題を演習する。 中間に授業内評価テスト(2回:各30分)及び期末試験を実施し、理解度を把握し、フォローアップする。 iCDタスクコード 該当なし(基礎知識全般)						
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				言語(数学)分野・非言語(国語)分野の問題に対して、解答を説明できること。	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職筆記試験について、SPIテキストの構成・内容の確認 数学分野(演習プリント1:仕事算)					
	2	国語分野(2:二語の関係①)、数学分野(3:仕事算)					
	3	国語分野(3:二語の関係②)、 数学分野(演習プリント2:鶴亀算)・連立方程式の演習・(4:鶴亀算)					
	4	国語分野(4:語句の用法)、 数学分野(演習プリント3:損益算)					
	5	国語分野(5:語句の意味)、 数学分野(5:損益算)					
	6	授業内評価テスト①(数学3～5、演習プリント1～3) 国語分野(6:短文の穴埋め)、数学分野((演習プリント4:速さ・時間・距離)				授業内評価テストの範囲を復習しておくこと	
	7	国語分野(7:文章整序) 数学分野(演習プリント4－1:通過算)、(演習プリント4－2:流水算)					
	8	国語分野(8:空欄補充)、 数学分野(6:速さ・時間・距離)					
	9	数学分野(演習プリント その他－1:濃度算) (演習プリント その他－2:年齢算)					
	10	授業内評価テスト②(数学6、演習プリント4～4－2)、国語分野(2－8) 数学分野(19:参考問題)				授業内評価テストの範囲を復習しておくこと	
	11	国語分野(9:長文読解、10:参考問題)、 数学分野(演習プリント:場合の数(順列・組合せ))					
	12	数学分野(7:場合の数)、 数学分野 演習プリント(確率)、(8:確率)					
	13	数学分野(9:割引料金と精算) 数学分野(10:分割払いと割合)					
	14	国語分野(1:熟語の成り立ち) 数学分野(1:整数問題、2:比・平均・分配・年齢)					
	15	期末試験対策					
評価方法	(1)定期試験を実施する。(2)授業の中で授業内評価テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	授業内評価テスト	◎	◎				30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	セキュリティ基礎									
科目名(英)										
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		北島 仁宇	
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・ 情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年									
授業概要	情報セキュリティにおける各分野の基礎レベルの知識を習得する。セキュリティに関する問題点と対処方法を説明することができ、ITベンダーやシステムインテグレーターなどの担当者と専門分野の会話が問題なくできるスキルを身に付ける。									
	iCDタスクコード		EX01.37.3、EX01.37.3、EX01.38.2							
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標				
	○					セキュリティの専門用語について学び、意味を説明することができる。				
		○				不正アクセスの具体例とそれらを防ぐための仕組みや技術について説明することができる。				
		○				暗号技術の理論を学び、その仕組みを説明することができる。				
		○				セキュリティ上の脅威における問題点と対処法について説明することができる。				
テキスト・教材 参考図書	この一冊で全部わかる セキュリティの基本(SBクリエイティブ)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1-2	セキュリティの基本(1)								
	3-4	セキュリティの基本(2)								
	5-6	セキュリティの確保に必要な基礎知識(1)								
	7-8	セキュリティの確保に必要な基礎知識(2)					1から2章までの用語の意味を確認しておく			
	9-10	攻撃を検知・解析するための仕組み(1)								
	11-12	攻撃を検知・解析するための仕組み(2)					3章までの用語の意味を確認しておく			
	13-14	セキュリティを脅かす存在と攻撃の手口(1)								
	15-16	セキュリティを脅かす存在と攻撃の手口(2)					4章の用語の意味を確認しておく			
	17-18	セキュリティを確保する技術(1)								
	19-20	セキュリティを確保する技術(2)					5章の用語の意味を確認しておく			
	21-22	ネットワークセキュリティ(1)								
	23-24	ネットワークセキュリティ(2)					6章の用語の意味を確認しておく			
	25-26	セキュリティ関連の法律・規約・取り組み(1)								
	27-28	セキュリティ関連の法律・規約・取り組み(2)					7章の用語の意味を確認しておく			
	29-30	総復習								
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	○						50%		
	課題・レポート	○		◎		○		30%		
	受講状況					◎		20%		
履修上の注意										